

日本画開拓の時代

—明治を生きる京の画家—

明治時代、開化期をむかえた京都では、画家たちが懸命に新しい日本画の在り方を模索していました。当時京都では近代化が急速に進み、絵画制作を取り巻く価値観も大きく揺らいでいました。国際的な博覧会の開催、学校教育制度の確立、新聞や雑誌などのメディアの台頭といった状況の中、美術はどう社会と関係していくのかが問われる時代になったのです。また、そうした気運に伴って絵画表現も変革の時をむかえます。西洋文化の輸入などに大きな衝撃を受けた画家たちの間では、それまでの書画を見直し、新時代に適應する日本画を生み出す必要が叫ばれました。

京都では、近世以前からの流れを継ぐ様々な流派の画家たちが集まり、団結して新たな日本画を目指しました。明治23年に結成された京都美術協会では、むやみに古人を崇拝することをやめ、それぞれの流派が閉鎖的に活動するのではなく交流し、切磋琢磨しながら「換骨脱胎」して先達に恥じない「新機軸」を打ち出すことを志として掲げました。

激動の時代、日本画家たちはどのように近代社会と関わり、どのような作品が誕生していったのでしょうか。

この展覧会では、明治時代の京都で活躍した画家たちに焦点を当て、近代日本画の出発点ともいえる作品約50点を展示します。約150年前の京都の町に生き、日本画開拓の夢を追った画家たちのたどった軌跡をぜひご覧ください。



久保田米僊《因揚陀尊者図》明治30年



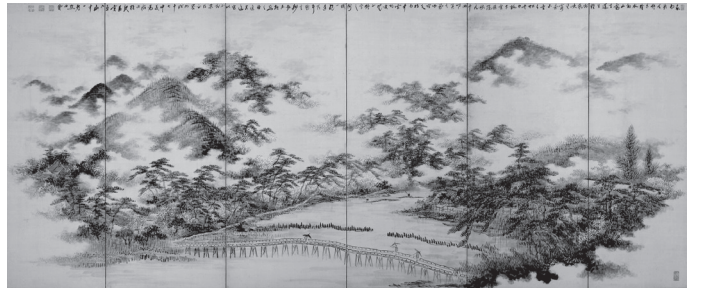
巨勢小石《白衣観音図》明治45年



幸野煤嶺《女官図》明治期
京都府立総合資料館蔵
(京都文化博物館管理)【後期展示】



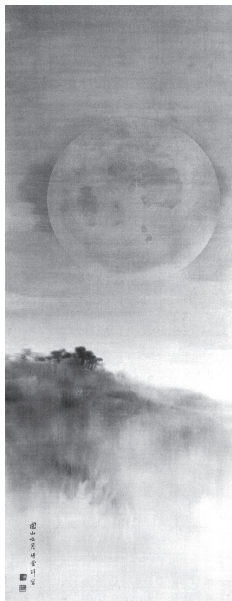
久保田米僊《漢江渡頭春光・青石関門秋色》(部分)明治28年【後期展示】



田能村直入《嵐山春景・滝野川秋景図》(部分)明治17年【後期展示】



望月玉泉《池畔驟雨図》明治21~24年
長岡天満宮蔵



岸竹堂《円山吐月之図》明治期
京都・天寧寺蔵



田村宗立《琵琶湖疏水工事図巻》(部分)明治18-23年
京都市上下水道局蔵

京都が目指した
絵画の
新機軸。

関連講演会

- 6月7日(日) 14:00~15:30
京都の画家を語る
「よくわかる幸野煤嶺入門」
植田 彩芳子氏(京都文化博物館学芸員)
- 6月14日(日) 14:00~15:30
京都の画家を語る
「明治人・久保田米僊の生き方」
森 光彦(京都市学校歴史博物館学芸員)

■各日とも
会場：京都市学校歴史博物館3F講義室
聴講料：無料(別途入館料が必要)
受付：当館への電話(075-344-1305)、
FAX(075-344-1327)、ハガキ、
Eメール(rekihaku-jigyou@edu.city.kyoto.jp)
※定員に達ししだい受付終了。
※イベント名、代表者氏名、連絡先電話番号、
参加人数を明記。
※FAX、Eメールの受付確認は行っておりま
せんのでご了承ください。
申込期間：4月2日(木)~各講演会前日まで

※駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。

阪急…河原町駅 徒歩約10分 10番出口「藤井大丸口」から南西へ
京阪…祇園四条駅 徒歩約15分 3番出口から南西へ
地下鉄…烏丸線四条駅 徒歩約12分 5番出口から東へ
市バス…四条河原町 徒歩約10分 南西へ
市バス…河原町松原 徒歩約5分 北西へ

京都市学校歴史博物館

Kyoto Municipal Museum of School History

〒600-8044 京都市下京区御幸町通仏光寺下る橋町437
TEL.075-344-1305 ※水曜休館 <http://kyo-gakurehaku.jp>

●この印刷物が不要になれば、「雑がみ」として古紙回収へ

